

しあわせ

3 月 号



わたしは光に届かないけれど
光はわたしに届いていますね

「手を合わす母」

いよいよ今月から新型コロナへの対応のあり方が緩和される。

完全にウイルスが存在しなくなることは有りえず、通常のインフルエンザと同じように、いわば共存社会を探ってゆくしかないようだ。

いつの時代、どの社会においてもやっかいな問題はついて回る。

ウクライナ問題もさることながら、中国と台湾問題あるいはミャンマー、北朝鮮など日本を取り巻く国際環境もいつどうなつてゆくか、一寸先は闇である。

何がどうなるうとも諸行無常・諸法無我の現実に変わりはない。この厳しい現実を生を得たこと、四苦八苦の人生を生きる意味とは何かをしつかり受け止めていなければ、「ひとたび業縁のもようさばいかなるふるまいもすべし」との親鸞聖人のお言葉通り、どんな境遇に落ちてゆくかわからない。

何が大切か。何がつても「人身受け難し今すでに受く」この一言が言える身になる、これを後生の一大事という。

法座案内

△春季彼岸会法要▽

三月 十七日(金) 昼席・夜席

十八日(土) 昼席

講師 米田順昭 師

(廿日市市 最禪寺住職)

△法味の会▽

三月二十四日午前十時

お話住職

※本堂内は常時換気しておりますが、参拝の際は、検温・マスク着用をお願い致します。

府中町山田二丁目一五十三
栢原山 龍仙寺
電話(〇八二二)八二四八二



小学校四年生の頃だったでしょうか、子どもものころ、林間学校で道後山というところに行きました。夜にはキャンプファイヤーがあり、そのあと、見たことのない満天の星空の下で、先生が星座について教えてくれました。ただ、そのとき先生は大きい懐中電灯をもっておられて、その光で星を指しながら、「えーこの星と、この星と、この星が、夏の大三角形といましてー・・・」

などと野外授業をしてくださったのですが、さっぱり、どの星なのかわかりませんでした。懐中電灯の光は、すぐそこで消えてしまっていたからです。あたりまえですが、懐中電灯の光で、満天の星空のなかのたった一つの星を照らそうとしても、それは無理な話ですね。わたしたちの光では、お星さまを照らすことはできません。むしろこちらの光を強くするほど、星は見えないくなるでしょう。街が明るくなるほど、星が見えなくなるように

以前、友人からこんな言葉を聞きました。「わたしは光に届かないけれど」

光はわたしに届いていますね」

わたしの手はけっしてお星さまの光には届きませんが、お星さまの光の方は、わたしに届いてくれています。お星さまが見えている、とはそういうことでした。ときには何万光年という彼方から、お星さまの光はわたしまで届いています。お星さまから届いているその光だけが、お星さまを見せてくれるのです。お念仏をいただくということも同じでした。私たちの眼は、色んなものが見えているように、一番大切なものが見えていません。何のために生まれてきたのか、どこに向って生きているのか。この生死の意味を見通すことができないのです。しかし、たとえわたしは見通せなくとも、見通してくださいっている仏さまの仰せは、届いてくださっています。浄土から届いている「南无阿弥陀仏」という

その光だけが、浄土に生まれていくこの身であることを、うなずかせてくださるのです。先日、子どもたちをお風呂に入れていたのですが、溶けて小さくなったバブの欠片が浮いてきたのを見つけて、長女がいました。「あつバブを育てなきゃ！」

ひとちゃんはそっちのバブ育てて！

ねえねはこっち育てるから！」

そういうと、姉妹でバブのかけらをせっけんを受け皿にくみとって、お風呂のなかで溶かしています。バブが無くなっていくのを「育てる」と言っているわけですね。どういふことかと聞いてみると、長女は言いました。「どんだんちっちゃくなつていくじゃろ、なっちゃんからね、巣立っていくんよ。」

なるほど、バブが小さくなるのは、ひろいお風呂に溶けこんでいくということでもありませんね。わたしは「なくなっていく」としか見

ていなかったので、とても新鮮でした。

「そっかあ、大きな世界に生まれていくんじやね。・・・あ、お婆ちゃんと一緒じゃね。」

ふと、先月（一月）お浄土にまいらせていただいた祖母のことを思い合わせると、長女は「そのことですよ」と言わんばかりに、少し得意そうに、微笑んでいました。

「お婆ちゃんは、命を終えていこうとしているね。でもね、亡くなっていくんと違うんよ。まんまんちゃんここに、生まれていくんよ。」

日を追って衰弱していく祖母の姿に「お婆あちゃん、死ぬん？」と涙をこぼしていた長女でしたが、一緒にお念仏をいただいた、そのときの言葉を聞いてくれていたようです。

親も子も、子供も大人も変わりません。浄土から届いている仏さまの仰せだけが、浄土に生まれゆく身であることを領かせてくださいます。ともにお聴かせにあずかりましょう。光はわたしに届いているのですから。